

市同教総会 研修会講演

演題 「わかりあうことから生まれる共存」

講師 尾中 友哉 さん(NPO法人 Silent Voice 代表理事)



(提供写真)

◇ 手話は国の文化によって異なります

「手話は世界共通ですか」と尋ねられることがよくありますが、そうではありません。例えば、「月曜日」の手話は、日本ではお月さんの「三日月」の形をつくりませんが、南アフリカでは「頭をなでる」動きをします。その理由は、月曜日の朝、登校して来る子どもの頭を先生たちがなでる習慣があるからです。このように、言語である手話はその国の文化によって異なります。

近年、日本でも各自治体で「手話言語条例」※の策定が進んでいますが、海外では手話が言語として認められている国があり、フィンランドやニュージーランドなどでは手話が国の公用語として憲法で定められています。実はこの手話の礎を築かれたのが約100年前の高橋潔さんでした。

(※「手話言語条例」…丹波市では2015年に策定されています)

《 尾中さんの紹介 》

1989年、滋賀県大津市に生まれる(母親は青垣町出身)。ろう者の両親を持つ耳の聞こえる子どもとして、手話を母語に育つ。ろう者、難聴者の強みが発揮できる仕事や職場を増やす活動、聴覚障がいのある子どもたちの教育の選択肢を増やす活動に取り組む。2018年、日本青年会議所主催「第32回人間力大賞」にて内閣総理大臣奨励賞を受賞。

2022年10月29日より全国で公開中の映画『ヒゲの校長』では、大正時代に手話を守ろうと奮闘した大阪市立聾唖(ろうあ)学校の高橋潔校長役を務める。



総会での講演より

◇ どっちが「たまご」で、どっちが「たばこ」?

100年前の1920年代は、口の動きを読んで言葉を推測する「口話法」が全国の学校で広められ、手話は口話の習得を阻害するとして禁止されていました。しかし、耳が聞こえない子どもたちにとって、初めて知る言葉を身振り手振りの伴わない口話で理解することは大きな苦悩でした。例えば、「たまご」と「たばこ」のようによく似た言葉の違いを口の動きだけで見分けることがとても困難だということからも、わかっていただけだと思います。教育方法も厳しく、手話ができないように両手にバケツをぶら下げたり、手を動かすとたたかれたりするということもあったようです。手話で会話が弾む子どもたちがいるにもかかわらず、それができない辛い時代だったと思います。

また、口話法の教育は発音の訓練も求めました。耳が聞こえない子どもは自分の声が聞こえないため、出した音を確認することができないにもかかわらず、間違っ

ていけば、厳しく叱責されました。当時のろう教育の方針は、口話法によって子どもが発音できるようにすることで聴覚障がいという“病氣”を持っている子を“健康な子”に近づけようとするものでした。その頃、高橋潔校長先生は大阪市立聾唖(ろうあ)学校に赴任し、子どもたちの学習や生活に寄り添う中で、「わかりあうためには口話の必要な子もいれば、手話が必要な子もいる」「一人ひとり違うのにそれを決めつけるのはよくない」という思いを持ちました。そして国の方針に抗い、手話の必要性を主張しました。

私は耳が聞こえない両親が手話で話す様子を見て育ちました。逆風の中、信念を貫いた高橋潔さんの活動がなければ、今のような自分がいたかどうかはわかりません。高橋潔さんは私にとってとても大切な人だというのが、役者経験のない私が映画「ヒゲの校長」の出演を断れなかった理由の一つです。

◇ 「助けるし、助けられる」の関係が大切です

私が、ここまで育ったのは、耳が聞こえない両親が、私のできないことをやってくれたからだと思います。国の制度では、「障害者手帳」を持っているか持っていないかで、障がい者と健全者が区別されますが、家庭や学校などの中では、障がい者と健全者の区別をして、誰かだけが助けられるということではなく、「助けるし、助けられる」という関係性の中にすべての人がいるということが大事だと思います。そのためには、「障がい者理解」ではなく「相互理解」が人間関係にいて必要なことだと考えています。

◇ 無意識の思い込みや偏見(アンコンシャス・バイアス)を疑うことが大切です

例えば、外科医＝男性という思い込みがあるとすると、外科医の女性が働きにくい環境になってしまいます。従来からの「思い込みを疑い、戦う」ことが大切だと思います。

また、「左利き」の人は「人間として不自然な姿だ」と言われていた時代があり、多くの人が「右利き」に矯正させられたり、結婚差別に遭ったりすることもあったそうです。このようなネガティブな状況がポジティブにとらえられるようになるきっかけが「左手でマイクを持つ歌手」「左手でボールを投げる野球選手」などがテレビをとおして活躍したことや、あるタレントが「左利きの人は天才肌が多い」と発言したことなどです。そして現在では、「左利き・右利き」を意識しなくてよい時代になっています。このような認識の変化は、障がい者の生きやすさのヒントになると思って活動しています。



総会での講演より

人権啓発DVD紹介

『バースデー』

～「性の多様性を認め合う」～

5月から6月に実施した理事会や各部会(就学前、小学校、中・高、行政)で皆さんに視聴していただき、学びを深めています。ビデオ活用ガイドの「制作のねらい」から紹介します。

性的少数者については、依然として社会理解が進まず、差別や偏見、配慮に欠けた対応などで、自身の思いや悩みを打ち明けることが難しく、周囲の無理解に苦悩し、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。一方、性的少数者であることを打ち明けられた家族や友人等は、既成概念による偏見や知識不足によって、理解しようと向き合う前に混乱や抵抗感にとらわれてしまうことが多くあります。

性の在り方は多様で一人ひとりの人権に関わることであるため、性的少数者の存在や悩みに気づくことが大切です。この作品を性的少数者について理解するきっかけとし、その多様性を認め、互いの人権を尊重することは、すべての人が自分らしく生きていける社会につながっていきます。そのような社会の実現をめざすことを目的として人権啓発ドラマを制作しました。



兵庫県人権啓発協会企画のビデオパッケージより

編集後記

新会長を迎え、2023年度の活動が始まりました。今年度も総会で承認された活動方針等に基づいて進めてまいります。市同教は、市内の教育機関、行政機関、各団体、企業などで10の部会と111名の部会員で構成されており、年間計画によって人権教育や人権啓発活動を推進しています。ホームページもご覧ください。

丹波市人権・同和教育協議会(tambashi-doukyou.jp)



長年の知識と確かな技術と
自由な発想—
新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ
防犯設計から
施工まで
徹底サポート!
安心と安全の
ために

**オフィス全体の
セキュリティ対策**
○情報漏えい ○不正アクセス
○なりすまし ○迷惑メールブロック等
○データ改ざん等ブロック
UTM(総合脅威管理アプライアンス)
Unified Threat Management

株式会社 ユニットシステム
UnitSystem Corporation
https://www.unitssystem.jp
E-mail: info@unitssystem.jp

日本の旅 / 世界の旅 予約受付中
あなたの旅を応援します!

- 団体旅行・グループ旅行・個人旅行などお気軽にご相談下さい
- JTB・近畿日本ツーリスト・日本旅行などの海外パック旅行/国内パック旅行の手配
- 宿泊のみの手配や食事・観光施設の手配も行います
- 貸切バス・航空券・JR券・フェリー券など各種船車券の手配も行います
- 格安海外航空券・海外のホテルの手配・バスポートの代理申請

など幅広いご要望にお応えいたします

○お申込み・お問い合わせ 丹波市柏原町柏原(JR柏原駅構内)
■柏原でのご来店は事前予約・ご予約または電話予約が必須です
■時間無効です。ご利用ください

関西旅行社
TEL (0795) 72-0325 FAX (0795) 72-2416
E-mail: info@kansairyoko.co.jp

JTB OKI JTB kncl 日本旅行